

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=1.0)

1. 機種 = ホテル用天井埋込形室内ユニット
 2. 形名 = PEFY-P22・28・36MLG7形(-R)

3. 機器諸元(図1参照)

(1)機器質量(運転質量) $W =$ 18 kg
 (2)アンカーボルト
 ①総本数 $N =$ 4 本
 ②サイズ・形状 $M =$ 10 形
 ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) $A =$ 78 mm² = 78X10⁻⁶ m²
 ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t =$ 2 本
 (3)据付面より機器重心までの高さ $H_g =$ 170 mm = 0.17 m
 (4)検討する方向からみたボルトスパン $L =$ 439 mm = 0.439 m
 (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g =$ 210 mm ($L_g \leq L/2$) = 0.21 m

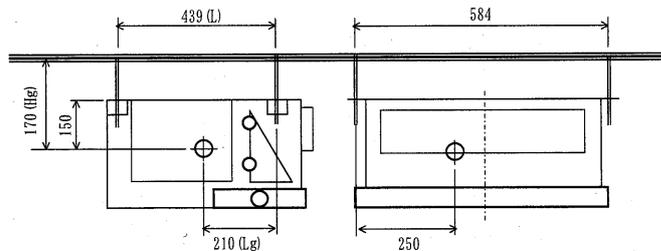
4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度 $K_h =$ 1.0
 (2)設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 =$ 0.5
 (3)設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$ 176.4 N
 (4)設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$ 88.2 N
 (5)アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$ 103.2 N
 (6)アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N =$ 44.1 N
 (7)アンカーボルトに生ずる応力度
 ①引張応力度 $\sigma = R_b / A =$ 1.3 MPa < $f_t = 176.4$ MPa
 ②せん断応力度 $\tau = Q / A =$ 0.6 MPa < $f_s = 132.3$ MPa
 ③引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$ 246.1 MPa
 $\sigma =$ 1.3 MPa < $f_{ts} =$ 246.1 MPa

(8)アンカーボルトの施工法

①アンカーボルトの施工法 = 埋込式L形アンカー
 ②コンクリートの厚さ = 150 mm = 0.15 m
 ③ボルトの埋込長さ = 110 mm = 0.11 m
 ④許容引抜加重 $T_a =$ 3528 N > $R_b =$ 103.2 N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分なる強度を有する。
 本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。



本図は左配管を示します(PEFY-P・ML)。右配管(PEFY-P・ML-R)は吹出口中央で対象となります。

三菱電機株式会社	作成日	2020/05/18	仕様書番号	WYNB1-4873	副番	-
----------	-----	------------	-------	------------	----	---

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=2.0)

1. 機種 = ホテル用天井埋込形室内ユニット
 2. 形名 = PEFY-P22・28・36MLG7形(-R)

3. 機器諸元(図1参照)

(1)機器質量(運転質量) $W =$ 18 kg
 (2)アンカーボルト
 ①総本数 $N =$ 4 本
 ②サイズ・形状 $M =$ 10 形
 ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) $A =$ 78 mm² = 78X10⁻⁶ m²
 ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t =$ 2 本
 (3)据付面より機器重心までの高さ $H_g =$ 170 mm = 0.17 m
 (4)検討する方向からみたボルトスパン $L =$ 439 mm = 0.439 m
 (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g =$ 210 mm ($L_g \leq L/2$) = 0.21 m

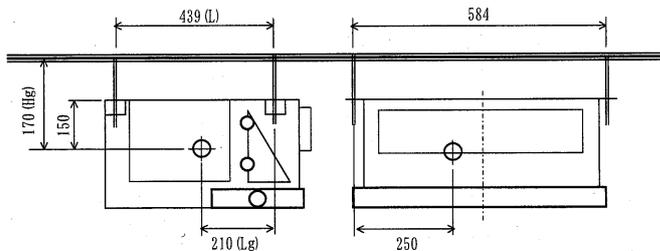
4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度 $K_h =$ 2.0
 (2)設計用鉛直震度 $K_v = K_h/2 =$ 1.0
 (3)設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$ 352.8 N
 (4)設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$ 176.4 N
 (5)アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$ 160.3 N
 (6)アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N =$ 88.2 N
 (7)アンカーボルトに生ずる応力度
 ①引張応力度 $\sigma = R_b / A =$ 2.1 MPa < $f_t = 176.4$ MPa
 ②せん断応力度 $\tau = Q / A =$ 1.1 MPa < $f_s = 132.3$ MPa
 ③引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$ 245.2 MPa
 $\sigma =$ 2.1 MPa < $f_{ts} =$ 245.2 MPa

(8)アンカーボルトの施工法

①アンカーボルトの施工法 = 埋込式L形アンカー
 ②コンクリートの厚さ = 150 mm = 0.15 m
 ③ボルトの埋込長さ = 110 mm = 0.11 m
 ④許容引抜加重 $T_a =$ 3528 N > $R_b =$ 160.3 N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分なる強度を有する。
 本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。



本図は左配管を示します(PEFY-P・ML)。右配管(PEFY-P・ML-R)は吹出口中央で対象となります。

三菱電機株式会社	作成日	2020/05/18	仕様書番号	WYNB1-4874	副番	A
----------	-----	------------	-------	------------	----	---